

平成 13 年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査

(抄録)

鈴木 亮

まぐろ類について

青森県における 2001 年のクロマグロ水揚げ量は、調査対象 7 地区を合計すると 202.3 トンで前年の 146.8 トンより 38% の増加となった。さらに 10 ヶ年平均水揚げ量 122.9 トンを大幅に上回り、調査開始以来もっとも多い水揚げ量である。地区別に見ると太平洋側は八戸 4.9 トン(前年比 155%)、六ヶ所 2.3 トン(同 41%)、尻労 9.9 トン(同 46%) であった。日本海側は深浦 32.3 トン(同 372%) 岩崎 12.3 トン(同 105%) であった。津軽海峡は大間 113.1 トン(同 149%)、三厩 27.1 トン(同 133%) であった。クロマグロ以外のまぐろ類は、キハダ八戸 2742.2 kg、深浦 59.9 kg、メバチ八戸 109.4 kg、ビンナガ八戸 21.0 kg、深浦 133.4 kg 水揚げされた。

青森県全体をみるとクロマグロ水揚げ量は増加したが、調査地区を大きく太平洋、津軽海峡、日本海とわけてみると、太平洋では 17.1 トン(前年比 56%) と前年を大きく下回った。八戸が前年を上回ったのに対し、六ヶ所と尻労では前年を下回った。太平洋での水揚げ量の減少は特に尻労の水揚げ量の低下が響いていた。津軽海峡では 140.2 トン(同 146%) と前年を上回り、大間と三厩共に水揚げ量は増加した。日本海では 44.6 トン(同 220%) と前年を大きく上回った。特に深浦の漁獲量増加が日本海の漁獲量に大きく影響していた。

さめ類について

八戸における 2001 年のさめ類水揚げ量は 466 トンで、前年の 358 トンより 30% 上回った。魚種別に見るとアブラツノザメが 447 トン(前年比 134%) と増加したが、ネズミザメは 14 トン(同 88%)、ホシザメは 5 トン(同 55%) と減少した。その他のさめ類はヨシキリザメ 110 kg、オナガザメ 50 kg が水揚げされた。